

雛の館－資料9

直衣雛（阿部美紀氏蔵）



直衣（のうし）雛は、有職（ゆうそく）雛の一つであり、公家の「ひいな遊び」に好じたものと言われていました。

内裏の衣生活を正しく考証した装束を雛に着せたものを有職雛と呼んでいます。

この雛は、直衣と言う公家の日常の上衣である装束を着用しているところから、直衣雛と名づけられました。男雛は白臥蝶紋の無双織。女雛の衣装は桂袴（うちはかま）で、女房の常の装束です。男雛は33cm。

古今雛（兼子昭平氏蔵）



古今雛は、明和（1764年～）に江戸上野の大榎屋の考案によって日本橋の原舟月が制作して以来、大流行となりました。京都にお

いても、新型の古今雛が作られていきます。本品は江戸後期のもので、京都製の古今雛です。

男雛28.5cm、女雛は28cm。

隨身（安孫子文亮氏蔵）



御所の建礼門等において警護にあたる衛士や、近衛兵の武人の服装を着した人形を隨身と呼んでいます。俗に左大臣・右大臣と呼ばれていますが誤りです。

本品は明治の初期のものと思われます。高さは11.5cm。

古今雛（浅黄勘七氏蔵）



本品は明治初期の内裏雛です。お雛の表情は瓜実顔に玉眼で、口元などは可憐な容姿をしており、江戸製の古今雛と思われます。

男雛28.5cm、女雛天冠含み29cm。

古今雛（安孫子文亮氏蔵）



本品は、江戸後期の京都製の古今雛です。長年の雛飾りの出し入れで、いつしか男雛の眉が薄れたので、眉に筆を補足したのが残念でなりません。他は着装等、よく保存されています。

男雛30cm、女雛25.5cm。

享保雛（河北町紅花資料館蔵）



享保雛の一種で、装束の着装は極めて簡素、お顔は切り目の手描きです。表着は唐花唐草紋の共裂で、全体的な容姿からみて享保雛と推察されます。

男雛31cm、女雛27.5cm。

雛の館－資料9

五人囃子（浅黄勘七氏蔵）



江戸後期の明和年間に、江戸の玉山が能楽の囃子方をモデルに五人囃子を制作、世に送り出したと言われていいます。寛政年間には、京都で5人又は7～9人の雅楽の囃子が作られました。本品は大正か昭和の始めごろの作品と思われます。高さ25.5cm。

享保雛（細谷巖氏蔵）



京文化との交流の証でもある雛の一つで、親しみのある表情とともに、ひなまつりを訪れる人々の心をなごませてくれる雛です。保存状態が良く、京雛の美しさをいつまでも伝えてくれる享保雛の逸品です。

男雛の高さは68cm。

享保雛（鈴木英友氏蔵）



享保時代（1716年～）は経済成長期に入り、その影響により多方面にわたって文化の全盛期に入りました。雛もその一つで、雛の歴史の中で最も華美に大型化した時代です。

特徴は瓜実顔で、色白の中高面長の顔に気品があります。衣装は紫金欄地で大きなふくらみをもっています。

男雛は73cm。

古今雛（門脇一男氏蔵）



明和（1764年～）時代に、江戸上野の大槌屋が原舟月に顔を彫らせて新しいお雛をつくりました。この手の雛を「古今雛」と呼んでいます。本品は京都で作られた雛で、風格のある作品です。目は上品に描きあげられた切り目で、初期の古

今雛と言えます。

男雛が24.5cm、女雛は天冠を含めて27cmの内裏雛です。

古今雛（柴田菊生氏蔵）



古今雛は明和（1764年～）の頃、江戸の大槌屋が原舟月に顔を作らせたものが原型で、古今雛の流行に乗じて京都でも作られるようになりました。この雛は京都製の古今雛で、現代雛の祖型と言えます。

男雛が30cm、女雛が28cmで、宝冠は京雛の特徴を表しています。

隨身（河北町紅花資料館蔵）



隨身は寛政ごろに京都で作られ、後世に雛壇に添雛として登壇することになる。

雛の館－資料9

隨身は申すまでもなく御所の警護にあたった近衛兵で、弓矢・太刀をつけている。本品は明治後期の作で、高さは26cmとなっている。

（堀米家一門の旧別荘堀米家より、古今雛・五人官女と共に寄贈を受けている。）